

平成28年度 指導と評価の年間計画（大阪府立桜塚高等学校）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術	音楽 I	2	1	ON1!	RECORDER BOOK

到達目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。
到達目標に向けての具体的な取組 (指導上の留意点)	(a)歌唱表現 曲種に応じた発声の工夫、視唱力の伸長、合唱における表現の工夫 (b)器楽表現 リコーダーやクラシックギターの体験と奏法の工夫、視奏力の伸長、合奏における表現の工夫 ◆生徒の主体的な授業への参加を重視する

月	単元・教材名	指導内容	評価方法
4月	発声の基礎	呼吸法、共鳴など発声の基礎を習得する	実技考査 出席状況 授業への取り組み 宿題・提出物
5月	器楽①	アルトリコーダーの基本的な奏法を習得し視奏力を養う	
6月	合唱①	混声4部合唱の響きを感じ取る 視唱力を養う	
7月			
8月	器楽②	リコーダーのいろいろな奏法を習得し、アンサンブルを体験することにより表現の工夫をする	
9月	合唱②	混声4部合唱を作り上げる中で表現の工夫をする	
10月		アンサンブルも取り入れて聞きながら演奏する練習をする	
11月	器楽③	クラシックギターの基本的な奏法の習得と鑑賞	
12月			
1月	器楽④	ギター和音奏法やアルアイレ奏法を学習し表現の幅を広げる アンサンブル発表を通して表現の多様さを感じ取る	
2月	合唱③	パートの役割を意識し、主体的に合唱を作り上げる	
3月			

平成28年度 指導と評価の年間計画（大阪府立桜塚高等学校）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術	美術 I	2	1	高校美術 1（日本文教出版）	なし

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎の充実。感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・クロッキーやスケッチやデッサンによる観察力、思考力、描写力の高まりを通しての主題の生成と表現材料の材質表現による制作手順を知る。
到達目標に向けての具体的な取組（指導上の留意点）	<p>A：表現について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用意されたワークシートにより創造的な表現の構想を練り、表現方法を工夫する。 ・絵画 感じ取ったことや考えたこと夢や想像のイメージや対象物の表現。 形体、色彩、構図構成などを工夫する。 ・デザイン 目的、機能、美しさを考え表現する。 形や色彩などの造形要素の働きを計画立て工夫する。 <p>B：鑑賞について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品発表鑑賞会を授業で実施し相互批評と相互評価を知る。 ・知的財産権や肖像権を知る。 <p>*講習—より高みを目指す制作と鑑賞への指導。 *補習—制作と鑑賞の遅れへの指導。 *地域連携や国際交流の課題制作や高大連携の観点から大学の先生に授業を行って戴く。 *豊中市・大阪府・日本国が主催するコンクール展に参加する。 *授業作品を外部に発表し展示する機会を多く設ける。</p>

月	単元・教材名	指導内容	評価方法
4月	○着彩デッサン・絵画・デザイン（平面）の各課題から選択して、スケッチやデッサンを基に作品を制作する。	<ul style="list-style-type: none"> ・着彩デッサン—「自分の手を描く」 ・絵画—「人と乗り物」「人と自然」「人と飲み物」の3つのテーマから一つテーマを選び絵画表現する。 ・ポスター—「日々の暮らしの中で、あなたが経験した楽しい出来事」を文章とイラストで表現しなさい。 ・「風が吹いている」という言葉から発想するイメージをイラスト表現しなさい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術への関心、意欲、態度 ・発想や構想の能力 ・創造的な技能 ・鑑賞の能力 <p>を指標とする評価 課題制作と作品 出席状況 授業への取り組み 提出物</p>
5月	○美術作品のよさや美しさを知る鑑賞の機会を授業で紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> *上記の4つの課題から一つ選択して課題制作を行う。 *それぞれの課題ごとにワークシートを用意する。 *制作プリントを用意し各授業ごとの制作内容を理解させる。 	
6月	○各コンクール展への参加	夏休みの宿題として紹介されたいくつかのコンクール展の作品創りを行う	
7月	○着彩デッサン・絵画・デザイン（平面）の各課題から選択して、アイデアスケッチを基に作品を制作する。	<ul style="list-style-type: none"> ・着彩デッサン—「鏡に写った手」を描く。 ・絵画—表現する動機を下記より一つ選択し、絵画表現しなさい。 1. 記憶に残った風景 2. 1日の生活の中から 3. 社会の出来事 ・イラスト—与えられた言葉の内容をくみとり、イラストで表現しなさい。また、その制作意図を端的に表すタイトルをつけなさい。以下の二つのことばから一つ選んで制作しなさい。①「私のパラダイス」②「私のフェスティバル」 	
8月	○美術作品のよさや美しさを知る鑑賞の機会を授業で紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> *上記の3つの課題から一つ選択して課題制作を行う。 *それぞれの課題ごとにワークシートを用意する。 *制作プリントを用意し各授業ごとの制作内容を理解させる。 	
9月	○鑑賞課題の実施。	各講座ごとに作品発表鑑賞会を実施する。	
10月	○デッサン力を培うをテーマに全員共通課題を実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・着彩デッサン—「自由の想定した『空間』に自画像を描きなさい。」 	
11月		<ul style="list-style-type: none"> *制作プリントを用意し各授業ごとの制作内容を理解させる。 *1学期2学期の手の動きを基に観察力を養い、制作の質を良くし、レベルを高める。 	
12月	○鑑賞課題の実施。	各講座ごとに作品発表鑑賞会を実施する。	
1月			
2月			
3月			

平成28年度 指導と評価の年間計画 (大阪府立桜塚高等学校)

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術	書道 I	2	1	書道 I (東京書籍)	

到達目標	書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てると共に、感性を豊かにし、生徒が主体的に自己実現を果たしていく能力を育てる。また、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。
到達目標に向けての具体的な取組 (指導上の留意点)	<ul style="list-style-type: none"> ・書写と書道の違いと密接な関連を理解し、書道の基礎的・基本的な技能や鑑賞力・表現力を、幅の広い教材や課題を通して、向上させる。 ・古典の臨書にとどまらず、創作作品を制作する中で、生徒ひとりひとりが、独自の書作品を完成させる充実感や達成感を味わえるようにする。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法
4月	書写から書道へ	<ul style="list-style-type: none"> ・書写と書道の違いと密接な関連、また、基本である姿勢・執筆法や用具・用材について理解する。 ・行書の基本的な用筆・運筆・字形の特徴を理解し、表現技法を学ぶ。 ・鑑賞と臨書について理解する。古典と筆者について理解する。古典の特徴を分析・理解して、習得する。 ・様々な用具・用材を用いて作品を書き分ける。その後、顔彩で彩色して用紙を制作し、自分の意図する作品を仕上げ、創作する楽しさを味わう。 ・互いの作品を鑑賞し、作品づくりに生かす。 ・自分の好きな言葉や詩を題材にして、自己表現の楽しさを味わう。用具・用材にも工夫し、自分の意図に合った表現をするという態度を養う。 ・互いの作品を鑑賞し、作品づくりに生かす。 	提出作品 鑑賞ノートレポート 出席状況 授業への取り組み
5月	行書による学習 ・基本 ・臨書「蘭亭序」 「風信帖」		
6月	・行書による<少字数>創作作品の制作		
7月	・鑑賞会 漢字仮名交じり文による学習 ・作品制作 ・鑑賞会		
8月	篆刻による学習 ・姓名印の制作	<ul style="list-style-type: none"> ・落款と印の重要性を理解する。 ・方寸の世界のおもしろさを理解する。印刀による彫り味を生かしながら趣のある印を制作する。 ・楷書の基本的な用筆・運筆・字形の特徴を理解し、表現技法を学ぶ。 ・古典と筆者について理解する。古典の特徴を分析・理解して、習得する。書風について理解する。 ・半切 1/2 に臨書し、作品のまとめ方を習得する。 ・互いの作品を鑑賞し、作品づくりに生かす。 	
9月	楷書による学習 ・基本 ・臨書		
10月	「九成宮醜泉銘」 「牛橛造像記」 「自書告身」		
11月	・鑑賞会		
12月			
1月	硬筆 仮名による学習 ・基本	<ul style="list-style-type: none"> ・形の整った文字で、まとまりを考えながら書く。 ・仮名の成立や種類について理解する。 ・仮名の基本的な用筆・運筆・字形の特徴を理解し、表現技法を学ぶ。 ・古典の臨書を通して、変体仮名に親しむ。 ・生活を豊かにする書の表現を理解し、作品を完成させる。 	
2月	・臨書 「高野切第三種」		
3月	カレンダー制作		

平成28年度 指導と評価の年間計画（大阪府立桜塚高等学校）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術	音楽Ⅱ	2	2	MOUSA 2	自主教材プリント

到達目標	音楽の諸活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、音楽文化についての理解を深め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばす。
到達目標に向けての具体的な取組 (指導上の留意点)	(a) 歌唱表現 声域の拡張と豊かな発声、視唱力の充実、合唱における豊かな表現 (b) 器楽表現 クラシックギターの奏法の習熟、視奏力の充実、個性豊かな表現 ◆生徒の主体的な授業への参加を重視する

月	単元・教材名	指導内容	評価方法
4月	器楽①	クラシックギターの奏法を深め、アンサンブル活動を通して表現の工夫をする	実技考査 出席状況 授業への取り組み 宿題・提出物
5月		視奏力の充実を図る	
6月	合唱①	混声四部合唱を体験し表現の幅を広げる	
7月		視唱力の充実を図る	
8月	器楽②	ギターの弾き語りを演奏することにより表現の工夫をする	
9月	合唱②	大人数の合唱をホールで演奏する体験を通して合唱の醍醐味を味わう	
10月			
11月			
12月			
1月	合唱③	アンサンブルを体験し、アレンジも含め表現の工夫をする	
2月	演奏会を創る	音楽Ⅰ・音楽Ⅱで学んだことを土台にしながら、グループアンサンブルに取り組み、豊かな表現の工夫をする	
3月			

平成28年度 指導と評価の年間計画（大阪府立桜塚高等学校）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術	美術Ⅱ	2	2	高校美術2（日本文教出版）	なし

到達目標	応用の充実。感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばす。
到達目標に向けての具体的な取組 (指導上の留意点)	<p>A：表現について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用意されたワークシートにより創造的で心豊かな表現の構想を練り、表現方法を工夫する。 ・絵画と立体 自然、自己、社会などを深く見つめ主題を生成する。 ・デザイン 生活を美しく豊かにするデザインの働きを考えて主題を生成する。 <p>B：鑑賞について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を通して時代、民族、国民、宗教などによる表現の相違や共通性を知り美術文化を理解する。 <p>*講習—より高みを目指す制作と鑑賞への指導。 *補習—制作と鑑賞の遅れへの指導。 *地域連携や国際交流の課題制作や高大連携の観点から大学の先生に授業を行って戴く。 *豊中市・大阪府・日本国が主催するコンクール展に参加する。 *授業作品を外部に発表し展示する機会を多く設ける</p>

月	単元・教材名	指導内容	評価方法
4月	○着彩デッサン・絵画（油彩、アクリル画）・ポスター	・着彩デッサン—「鉛筆を持っている手」をモチーフとして着彩デッサンしなさい。	<ul style="list-style-type: none"> ・美術への関心、意欲、態度 ・発想や構想の能力 ・創造的な技能 ・鑑賞の能力 を指標とする評価 課題制作と作品 出席状況 授業への取り組み 提出物
5月	ー・イラスト・立体の各課題から一つ選びデッサンや	・絵画—「私の好きな場所」をテーマに、その場所と私を表現しなさい。	
6月	スケッチを基に作品を制作する。	・ポスター—「私」をテーマとするポスター表現。イラストと文章で表現する。ただし、文章は10文字程度とする。	
7月	○美術作品のよさや美しさを知る鑑賞の機会を授業で紹介する。。	・イラスト—「春夏秋冬」の中から季節の一つ選びそのイメージをイラスト表現しなさい。 ・立体—「動物」をテーマにケント紙を使って立体表現しなさい。 *それぞれの課題ごとにワークシートを用意する。 *制作プリントを用意し各授業ごとの制作内容を理解させる。	
8月	○各コンクール展への参加	夏休みの宿題として紹介されたいいくつかのコンクール展の作品創りを行う	
9月	○着彩デッサン・絵画（油彩、アクリル画）・イラスト	・着彩デッサン—「ほほづえをつく自画像」をテーマに自分の片手を含めた自画像を描きなさい。	
10月	ー・絵本・立体の各課題から一つ選びデッサンやスケッチを基に作品を制作する。	・絵画—「私たちにととの世界」をテーマに絵画表現しなさい。 ・イラスト—「私の好きな食べ物」をテーマにイラスト表現しなさい。	
11月	○美術作品のよさや美しさを知る鑑賞の機会を授業で紹介する。。	・絵本—絵本の読み聞かせを目的とする絵本創りです。以下のテーマから一つ選んで創りなさい。①Happy②Special ・立体—「水の有る風景」をケント紙を使って立体表現しなさい。 *それぞれの課題ごとにワークシートを用意する。 *制作プリントを用意し各授業ごとの制作内容を理解させる。	
12月	○鑑賞課題の実施。	各講座ごとに作品発表鑑賞会を実施する。	
1月	○デッサン力を培うをテーマに全員共通課題を実施。	「手に何かを持った自画像を描きなさい」をテーマに着彩デッサンを行う。 *制作プリントを用意し各授業ごとの制作内容を理解させる。	
2月			
3月	○鑑賞課題の実施	各講座ごとに作品発表鑑賞会を実施する。	

平成28年度 指導と評価の年間計画 (大阪府立桜塚高等学校)

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術	書道Ⅱ	2	2	書Ⅱ (東京書籍)	

到達目標	書道の創造的な諸活動を通して、書を愛好する心情を育てると共に感性を高め、書の文化と伝統についての理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばす。
到達目標に向けての具体的な取組 (指導上の留意点)	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の歴史や古典の時代背景について体験学習することで、書の文化と伝統についての理解を深める。 時間をかけて質の高い作品を完成させる中で、感性を高め、自らの意図に基づいて構想して、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばす。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法
4月	導入	<ul style="list-style-type: none"> 年間の活動内容と評価について確認する。 	提出作品 鑑賞ノートレポート 出席状況 授業への取り組み
5月	篆書による学習 ・基本 ・臨書「石鼓文」 甲骨文・金文	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の歴史や古典の時代背景について理解する。 篆書の基本的な用筆・運筆・字形の特徴について理解し、表現技法を習得する。 甲骨文や金文のもつ文字造形のおもしろさを十分に生かしながら、書表現の幅を広げる。 	
6月	隸書による学習 ・基本 ・臨書「礼器碑」	<ul style="list-style-type: none"> 隸書・草書の基本的な用筆・運筆・字形の特徴について理解し、表現技法を習得する。 	
7月	草書による学習 ・基本 ・臨書「十七帖」	<ul style="list-style-type: none"> 半紙に臨書した後、画仙紙(半切 1/2)に書くことで、文字の大きさ・行の流れ・字間のとり方・余白・墨継ぎ・落款等を工夫する重要性を理解する。 	
8月	硬筆	<ul style="list-style-type: none"> 全体のまとまりにも注意して書く。 	
9月	漢字二字熟語による創作作品の制作	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ2字熟語を5書体に書き分け、その中から最も自分の制作意図にあった書体で作品を制作 漢字の各書体の特徴について理解し、書き分ける。 自分の意図する作品を制作するにあたって、用具・用材や構成・余白・字形・運筆・墨量等を工夫する。 生徒相互の鑑賞会を設け自身の作品づくりに生かす。 	
10月	漢字仮名交じり文 ・鑑賞会	<ul style="list-style-type: none"> 画仙紙に顔彩で彩色して自分の意図する作品にあった紙を制作し、表現の幅を広げ、書との調和を目指す。 	
11月	刻字 ・鑑賞会	<ul style="list-style-type: none"> 途中で生徒相互の鑑賞会を設け自身の作品づくりに生かす。 	
12月	・作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 書くということと、彫るということの相違と共通点を理解し、彫り上げて作品を完成する喜びを味わう。 	
1月		<ul style="list-style-type: none"> 刻字の方法について理解し、用具・用材についても正しく使う技能を習得する。 	
2月	・鑑賞会	<ul style="list-style-type: none"> 生徒相互の鑑賞会を設け自身の作品づくりに生かす。 	
3月			

平成28年度 指導と評価の年間計画（大阪府立桜塚高等学校）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術	美術Ⅲ	2	3	高校美術3（日本文教出版）	美術 表現と技法（日本文教出版）

到達目標	発展の充実。感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。
到達目標に向けての具体的な取組 (指導上の留意点)	<p>A：表現について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 独創的な主題の生成と表現の構想。 ・ 主題に合った表現方法の工夫。 ・ 絵画と立体 個性を生かして創造的な表現を追求する。 ・ デザイン 創造的なデザインの追求。 <p>B：鑑賞について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際理解に果たす美術の役割を知る。 <p>*講習—より高みを目指す制作と鑑賞への指導。 *補習—制作と鑑賞の遅れへの指導。 *地域連携や国際交流の課題制作や高大連携の観点から大学の先生に授業を行って戴く。 *豊中市・大阪府・日本国が主催するコンクール展に参加する。 *授業作品を外部に発表し展示する機会を多く設ける</p>

月	単元・教材名	指導内容	評価方法
4月	○絵画・ポスター・イラスト・立体の各課題から一つ	・ 絵画—「自分」もしくは、「空間・人」のいずれかをテーマとする絵画表現。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美術への関心、意欲、態度 ・ 発想や構想の能力 ・ 創造的な技能 ・ 鑑賞の能力 を指標とする評価 課題制作と作品 出席状況 授業への取り組み 提出物
5月	○選びデッサンやスケッチを基に作品を制作する。	・ ポスター—「風」という言葉が入る文を自由に創りそれをビジュアルに表現しなさい。	
6月	○美術作品のよさや美しさを知る鑑賞の機会を授業で紹介する。	・ イラスト—「人と都市」をテーマとするイラスト表現。 ・ 立体—「植物のある空間」をテーマにケント紙で立体表現しなさい。 *それぞれの課題ごとにワークシートを用意する。 *制作プリントを用意し各授業ごとの制作内容を理解させる。	
7月			
8月	○各コンクール展への参加	夏休みの宿題として紹介されたいくつかのコンクール展の作品創りを行う	
9月	○絵画・ポスター・イラスト・立体の各課題から一つ	絵画—「鏡に写る自分の顔」をテーマに絵画表現しなさい。 ポスター—「あいさつ」をテーマにポスター表現しなさい。	
10月	○選びデッサンやスケッチを基に作品を制作する。	イラスト—「小鳥とその鳴き声」をテーマに楽しいイラストを表現しなさい。	
11月	○美術作品のよさや美しさを知る鑑賞の機会を授業で紹介する。	立体—「かがやき」をテーマにケント紙で立体表現しなさい。 *それぞれの課題ごとにワークシートを用意する。 *制作プリントを用意し各授業ごとの制作内容を理解させる。	
12月	○鑑賞課題の実施	各講座ごとに作品発表鑑賞会を実施する。	
1月	○創作という観点から表現形式を生徒各自が自分で決	テーマ—「自分が美しさや良さを感じ取る対象や事象を表現しなさい。」	
2月	めて制作する。	*それぞれの形式ごとにワークシートを用意する。	
3月		*制作プリントを用意し各授業ごとの制作内容を理解させる。	